

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

@web

第64回

2021年
4月17日(土)
13:00 ~ 15:00
ルームオープン: 12:40

Zoomにて開催! **参加無料**

★メールでのお申し込みが必要です。

Zoomの参加URL(ルーム番号とパスワード)をお送りします。
※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。

映画化された上海

『上海ドキュメント』 ブリオーフ

『上海』 亀井文夫

『上海バンスキング』 深作欣二

報告者: 春名 徹



『上海ドキュメント』
ステンベルグ兄弟による
『ロシア・アヴァンギャルド』の
構成主義的ポスター



『上海バンスキング』
プログラム表紙より



『上海』
映画の1シーン

“魔都”上海の虚と実

亀井文夫は画家を志してモスクワへ向かう旅のはじめにウラジオストックで『上海ドキュメント』(1928年)という無声映画をみて上海の現実をはじめて知ったと『たたかう映画』で書いている。

では画家志望、文化学院卒業の亀井にとってそれまで実像だと思っていた虚の上海とはなにか?

上海共同租界の変質——イギリス人がインド植民地の延長として考えていたアングロインド式の上海は第一次世界大戦によって崩壊した。

あとに来たのは芥川龍之介の『上海遊記』であり、村松梢風の『魔都』であり、ミュラーの『冒険者の天国』であったと思う。そもそも上海を舞台にした映画というものは『上海ドキュメント』以前に存在しなかった。

三十年代に『上海特急』(スタンバーグ監督 デートリッヒ、アンナ・メイ・ウォン)が現れるが、これは上海行きの列車が舞台上で上海は終着点にすぎない。

もうひとつ興味深いのは『風雲のチャイナ』(原題『イェン将軍の苦いお茶』)で、アメリカ人女性宣教師と中国人将軍との上海を舞台にした禁じられた恋という題材は、ヘイズ・コード以前、つまりアメリカ映画の倫理規定ができる前だから可能だった。野蛮と動乱という中国イメージである。

これと対比すると、『上海ドキュメント』や『上海』がいかにも優れた、現実を直視した作品か理解できる。前者の手法と、亀井の日本軍の行進を描いた有名なトラッキングショットを鑑賞し、そのうえで日本人の固定観念ともいえる夢の馬鹿馬鹿しさを『上海バンスキング』(深作欣二版)で見ようと思う。

●春名 徹(はるな あきら)

1935年東京生まれ 東京大学文学部東洋史学科卒業。
専門は東アジア海域史、都市史。『北京』(岩波新書)など。
桑野塾とのスタンスは大島一座。